

## D. L. ボリンガー「スペイン語のX の發音に就て」

花 村 哲 夫

John M. Pittaro は其の著 “Curso moderno de español” P. 6 に於て、xは子音の前では、S (extraño, texto, mixto, expreso, extreño) のように發音され、母音の間に挟まれた時は、gs と發音され、時にはKSとなるとして examen, laxo, máximo. éxito, axioma の例を擧げている。Oberlin College の Norman P. Sacksは、母音の間に挟まれる時はKS (examen, éxito, existir) となり、子音の前に來る時は通例 S となる (extraño, explicar) と述べ、gs の發音を認めていない。Madrid 大學の Prof. R. Torresは、x は英語に於ける x と同じである (explicar, exponer, exportar) としてKS音一本槍で、gs 及び s の音を双方とも認めていない。この x 音に對して、中南米を基調として、何等かの標準が立てられないものであろうか。

一體、子音の z に就ても母音を表わすと從來言われているが、これは Standard Castillian の音であつて、中南米に於ては、S 音である。南カリフォルニア大學の Prof. Dwight L. Bolinger は、スペイン語に於ける x に就て、これに應えるような興味ある論文を發表している。(“Hispania” Vol. xxxv. Number I. “Evidence on X” pp. 49—61., The American Association of Teachers of Spanish and Portuguese)。ボリンガー教授は、中南米の主要國の約十ヶ國の教養ある人達に照會を發して得た回答を基礎にして、の發音の價値を定めようと試みたものであつて、二、三意見を異にする所もないではないが、参考になる處が、多々あるので、以下かなり忠實に要旨を紹介することにした。

スペイン發音學の權威 Tomás Navarro は其の著 “Pronunciación española” (Madrid 1932) p. 140 に於て「x は歴史的に KS 音に等しいが

然し其の發音は、教養ある人々が話したり、強調的話法というような、よく判然とした場合を除いては、この音の正確な價值に適しているとは言えない。日常會話に於ても子音の前のxはsのように發音される」といつている。Navarroは其の書に於て、この概括に、何等の例外を認めていない。彼の引用している *extraño, explicación, exponer, excelente, excepción, exclamar, excursión, extensión* の諸例は、單に pre-consonantal (子音の母に来る時) S であるという事以外に、何等認むべき強勢又は音聲的環境の型を示していない。従つて我々は子音の前に来るの x の總ての例はこれで説明がつくだろうと推論する。偶々よく觀察するに Navarro の概括の總てが必ずしも正しくないことが判る。この疑いは私が着手した一聯の調査に依て益々深くなつた。

種々の身元の中南米人は、かなりの規則正しさを以て pre-consonantal KS を用いているのが聞かれる。Jose Figueroa 知事の公文書に見られる綴字上の誤り (*extraordinario* とあるべきものを *ecstraordinario* としたり、*exselentísimo* とあるべきものを *ecselentísimo* としたりしてある) のようなものは、現在に於ても、過去に於ても決して絶滅したものでないことを示している。マドリッドに於ける、私の友達は最近、普通の話し言葉に於て KS の音を聞いて驚いたと述べている。そしてコスタリカ及びグアテマラに於て、よく注意して聞いてみると、中央アメリカに於ては兎に角 KS の音が屢々聞かれると確言した。この論文に於て一層信頼出来る科学的構成を作りあげ少くとも、我等の教科書に於て x を英語に於けるように KS のように發音すると云うことより以上の事をする價值のあるものかどうかと云う至上の教授上の問題に答えるものである。得た結果は、その中心問題に答えるものであると私は決定的に考えるものである。其等は又何等かの抱括的な陳述が pre-consonantal x の總ての例を抱括し得るかどうかの質問にも答えるものと私は信ずるものである。

研究の基礎になつたのは、下記の第一表に示したような質問書であつて、例證のために一組の回答を求めてある。

### 第 一 表

質問表：此の質問はラテン、アメリカの各地方に於て x が如何に發音されるかと云う事を確かめるためである。假令ある地方では、他の地方より、より正確であると考えられていようと、少くとも二つの正しい發音があれば充分である。x を含んで單語が KS 又は S と發音されるかどうか正確にお答えを乞う。

	私は言 う。 Yo digo	私の友達の 大部分は云う。 La mayoría de mis compañeros dicen	このように云 う方がよろし いと思う。 Creo que mejor decir		私は言 う。 Yo digo	私の友達の 大部分は云う。 La mayoría de mis compañeros dicen	このように云 う方がよろし いと思う。 Creo que mejor decir
Tengo que EXPIAR un pecado ajeno .....	S	S	KS	EXPURGARON dos pa- sajes antes de publicarlo	S	S	KS
El EX ministro de la Gran Bretaña.....	KS	KS	KS	Es una MIXTURA de varias medicinas .....	S	S	KS
En la jurisprudencia, una defensa EX parte no es admisibile.....	KS	KS	KS	Voy a hacer unas REFLEXIONES .....	KS	KS	KS
Lo que quiere EXPONER en su libro un personaje como él.....	KS	KS	KS	Vimos su pobre cuerpo; EXANGÜE.....	S	S	KS
Todo eso es misterio y MIXTIFICACIÓN .....	S	S	KS	Lo dijo con ÉXTASIS...	KS	KS	KS
Aquí viene don SIXTO...	KS	KS	KS	Es profesor AUXILIAR...	S	S	KS
No decir ni OXTE ni MOXTE .....	KS	KS	KS	Nos pidieron AUXILIO...	S	S	KS
Sè necesita más EX- PERIENCIA.....	S	S	KS	Los debemos AUXILIAR	S	S	KS
Tengo dos copias EXTRA	S	S	KS	EL plomo es TOXICO...	S	S	KS
¿Cuál es el TEXTO que se usa?.....	KS	KS	KS	EL LÉXICO de Rivas es extenso.....	KS	KS	KS

Mi amigo vive en TAXCO.....	KS	KS	¿ EXTENSO el léxico de Rivas?.....	S	S	KS
Han escaseado mucho los TEXTILES.....	S	S	Tiene una gran EXTENSIÓN.....	S	S	KS
Déme el primero y el SEXTO.....	S	S	Hubo un gran auditorio de ambos SEXOS.....	S	S	KS
Se consume mucho NIXTAMAL en Méjico	KS	KS	EL bello SEXO tiene poco seso.....	S	S	KS
No admite EXCEPCIONES .....	S	KS	Tomemos un TAXI.	S	S	KS
Mostró un EXCESO de entusiasmo .....	S	S	No valen las EXCUSAS...	S	S	KS
El plazo no ha EXPIRADO todavía.....	S	KS	EXPOLIARON la mica.....	S	S	KS
		KS	Mandé imprimir. mi EX LIBRIS .....	KS	KS	KS

右の表からみて、xに對してKSと發音する人達が概して發音に注意をする人達で、一方Sと發音する人々は假令教養ある人々でも發音に無頓發な人々であることが判る。質問の例が種々になつてゐるのは、回答の矛盾のないようにする爲である。如何なる人々が斯く發音する等という不躰の質問を少しでも和げる積りであつた。大部分の結果は質問の核心に關する限り不確かさを除去している。質問書は中南米諸國の文化機關の大部分並びに、いくつかの大學に送られ大いなる協力を得た。十ヶ國より219の書式が返されて來た。ある特殊の社會層から回答を選び出すようなことはしなかつた。チリー、パナマアルゼンチンの三つの大學に於ける回答者は、極めて著しいという程度ではないが、他の文化センターに於ける人々の平均よりも一層批評的であつた。エクアドルの文

化センターに於ける被質問者の大部分は大学教育を受けたもので、ポリビヤに於ては大学教育を受けたものばかりである。比較の信頼性は各國とも、如何に正確に験された集團が其の國の usage と意見とを反映しているかどうかと云う事に依存する。彼等は總て指示通りに従つた譯ではなく、相當數の回答者は指示から逸脱していた。曖昧な返事を捨てた事は勿論であるが、たゞ回答者の意圖がかなり明らかであつた時、例えば若し x が回答として用いられたならば、回答者が他の所で S を用いて區別している場合には、KS として計算した。個人主義者のある者は、gs を記入した。そして其は統計に於て KS の轉訛として計算した。そして他の者は目立つてチリー人であるが單に K を挿入したが、それは S の轉訛として計算した。何故ならチリーの氣息音 (aspirated) /S/ を寫し出す試みと考えられたから。この事は割合を少々 S の方に有利にしている。何故なら K は想像し得るように、還元した KS であると同時に altered S でもあり得るからである。此等の質問外の記載も、彼等が正確さに對する欲望と考えれば、又私を激勵するものである。

### (一) 總括的回答と社會的標準

總計 21,303 に及ぶ回答は、次の表及び以下の表に於て、Intervocalic (母音の間に挟まれる時)、Auxiliar-auxilio-auxiliar (以後 aux. と略す) と Pre-consonantal に分類して置いた。他の Intervocalic の回答と共に、aux. group を含めて置いたことは、二つを比較して判るように、數字を歪めたことにもなる。

この表からみると、如何に話者が實際には、こう云つたり、考えていると云つても、彼等は KS を S よりも intervocalic の位置に於ても殆んど pre-consonantal の位置に於けると同じように好ましいと考えていることが判る。“Es mejor” 欄は殆んど、總ての十ヶ國に於て一樣である。そしてどの國も想像された實際の發音 (“La mayoría” 欄) と殆んど同じ程度に於て變つていない。第三表は二つの欄から pre-consonantal x に對する數字を國別にして示してある。“La mayoría” 欄の兩極端は 44%—56% に對し 86%—14% であり、一

方 “Es mejor” 欄に於ては74%—26%に對して僅か97%—3%である。

第二表 回答の合計

	YO. 私		La mayoría 大多數		Es mejor 一層よろしい°	
	KS	S	KS	S	KS	S
Intervoc.	1426 96%	59 4%	1278 92%	109 8%	1398 97%	43 3%
Aux.	274 43%	367 57%	187 31%	415 69%	350 56%	270 44%
Pre-cons.	4061 78%	1133 22%	3025 62%	1855 38%	4526 90%	527 10%

第三表 國別にした Pre-consonantal x  
及び回答の數及び%

	La mayoría				Es mejor.		
	KS	數	即ち	%	數	即ち	%
アルベンチン	KS	355	即ち	57.5%	508	即ち	89.5%
	S	263	〃	42.5%		60	〃
ボリビヤ	KS	411	〃	86%	446	〃	92%
	S	69	〃	14%		41	〃
チリ	KS	345	〃	44%	688	〃	85%
	S	445	〃	56%		118	〃
コロンビヤ	KS	189	〃	54.5%	312	〃	84%
	S	158	〃	45.5%		58	〃
コスタ、リカ	KS	248	〃	62%	364	〃	89%
	S	151	〃	38%		45	〃
ドミニカ	KS	164	〃	45%	356	〃	97%
	S	198	〃	55%		10	〃
エクアドル	KS	299	〃	69%	449	〃	97%
	S	135	〃	31%		13	〃
ホンデュラス	KS	295	〃	58.5%	500	〃	87%

	S	209	//	41.5%	75	//	13%
パ ナ マ	KS	170	//	57%	223	//	74%
	S	130	//	43%	77	//	26%
パ ラ ガ イ	KS	549	//	85%	680	//	96%
	S	97	//	15%	30	//	4%

KSとSの選擇の問題に就ては、質問書の下にある質問文に對する直接の回答に依て證明されている。219人の回答者の中で、142人がこれに回答した。これらの中で123人はKSが教養のある人達に依て用いられると述べた。残り19人の回答に就ては、14人はKSはより教養的であるという一般的概念に適合していた。そしてたゞ5人のみが一般的概念に何等關聯を持つていなかった。5人の述べた事は引用する價值がある。或るチリー人は、双方の發音は速度と強調に依存して、教養ある人々に依て用いられる。他のチリー人はKSは外人に依て用いられる。或るエクアドル人は、死語の研究に役立つだけだ。或るパラガイ人はSをスペイン人の精にした。或るミミカ人は最も用いられている言葉は、一般に話者が喋るためにSの音の様に聞え總ての教養ある人々は余り頻繁に用いられない單語は、其等をKSの様に發音すると云つてゐる。質問書を配布して呉れた人々の中で彼等の論評に於て、少々意見の喰い違いがある。其等の人々の中で、コスタ、リカの Mrs. Chacón は「子音の前に先立つxの大部分は當地では、教養のある人々の間にさえSの様に發音される。この意味に於ける私の觀察は不動のものである。勿論大学に於て、語学教授達は、いつも學生達の發音を訂正してやろうという絶えざる希望を保持している。勿論授業をする時とか、公衆の前で喋る時とか、又他の人達の爲に本を読むとき等には、立派な發音に注意する」と云つてゐる。パナマの Dr. Alfaro は (1) Intervocalic x は大して教養のない人達に依つてさえ、必ずKSと發音される。(2) 子音の前でxはkの音を失う。その喪失は話す人の教養の程度に應じて變化して行く。(3) 子音の前に來る時、xの澄んだ強い音は發音に特別の注意を拂う人々に於て認められる」と云つてゐる。最もよいKS音の浸入に對す

る證據は Mr. Freeney に依つて與えられている。即ち彼は Quito に於ける超正確な發音、ekspléndido, espontáneo, estricto 等を擧げている。彼は又彼のクラスを調べてみた處、Quito の教養ある人々は KS を用いている。然し Guayaquil のような海岸地方に於ては、S 音が總ての種類の人々の間に用いられていると付け加えている。

數字及び論評に依ると、否定的論評が半ば辯解的ではあるが、明らかに KS が一般に S よりもつと是認されている發音であると考えられている事が判る。

## (二) 判断と實際の用法

一般の人々が、そうしていると考えるように其程多くの人々が KS 音を用いていないと云う事は論を俟たない。こゝで La mayoría 欄の價值（そこでは pre-consonantal の比率が73%だけ増加している）が其自身證明している。或るアルゼンチン人が KS-S-KS型（私はKSと云いKSが正しいと思う。然し私の友人達は總てSを用う）を pre-consonantal x の總ての例に對して、専ら用いていると記録しているのは、彼が誇張しているということを私共は考える。KS はゆつくりとした注意深い發音方法であるから自分自身の談話に集中している時は誰でも、自動的にKS音に大いに移つて行く。さもなければ彼は S を使うであろう。ドミニカの Gray 氏は、早く喋る時には實際にSを發音すると誰かに納得することは大變に難しい。そして左様自覺している時だけ KS と發音していると云つてゐる。彼は又總ての所謂職業的人々の半分は彼等が KS と發音していると考える時には S を發音するのが私の個人的意見であると付け加えている。

判断表は以下の通り。不當に計算を混み入らせないようにKだとかsh等のような音を除き完全なる判断だけを表にした。各判断型の意味を述べれば、KS-KS-KS型は我々はKSを用いる。そして其は正しい。KS-S-KS型は、私はKSを用いそして其は正しい。他人はSを使うけれども。S-S-KS型は、我々はSを用うがKSを用うべきである。S-KS-KS型は私はSを用いる。然し私はKSを用いる他人を真似るべきである。S-S-S型は我々は總てSを用い、それ



は正しい。S-KS-S型は私はSを用い、そして其は正しい。他人はKSを用いるか知れないが。KS-S-S型は私はKSを用いるがSを使う他人を真似るべきである。KS-KS-S型は我々はKSを總て用いるがSを用いるべきである。

第四表は判断の總括的配置 (over-all distribution of judgement) を示している。百分率に加うるに一度又は其以上の質問に對して判断を述べた人数、及び其等の人達の國籍が十ヶ國以上、述べてある。判断を與えた人々の數を記録したのは一人で判断を數回繰返し得るからである。判断の絶對數は、時々其程重要でない。確實性の内在的證據は、若し我々が型を型としてのみ考慮に入れ、そして個々の單位の中に置ける分布を考慮に入れない時は、自己批評を含む處の型を除いては得られるものではない。KS-KS-KS型は眞實であるかも知れないし、眞實でないかも知れない。然しS-S-KS, S-KS-KS, KS-S、及びKS-K-Sは殆んど確かに眞實である。或は少くとも、完全に當てになるものである。何故なら其等は話者が自分の標準に従はないという事を意味しているから。時にS-KS-KS、及びKS-S-S型は信ずるに足る。何故なら回答者の友達は自分達より、より正しく話していると報告しているから。S-KS-KSに對する數字は、八ヶ國に於ける24人は pre-consonantal KSが一般に用いられている事を證言している。S-KS-S型も自己批評を含んでいないけれども、同じ證言をしている。個々の回答者の或るものは回答者が自己批評をした回数などで目立つて居り、又自己が使はない所のKSを他人が使つてゐるのを認めていることで顯著である。或るパナマ人は pre-consonantal S-KS-Sの17の例とKS-KS-Sの三つの例を記録している。あるチリー人は pre-consonantal S-KS-Sを四回、KS-K-Sを一回、及びKS-S-Sを一回、もう一人のチリー人は pre-consonantal KS-S-Sの十二回を記録している。或るアルゼンチン人は pre-consonantal S-KS-Sの十一回を記録している。或るパラガイ人は pre-consonantal S-KSの四つの例を擧げている。もう一人のパラガイ人は終始一貫して pre-consonantal xを用いている。結局あるチリー人の云つたように一般にxの發音はKSとSとの間を動搖していると片付けられぬこともない。

各國に對する完全なる表は第五表であり百分率のみを示して、比較のため

に太字で全體の平均が示してある。八つの欄の中、四欄だけ、即ち KS-KS-KS, KS-S-KS, S-S-KS 及び S-S-S欄は其等の中での比較を意義あらせるに充分な判断の總計を含んでいる。この表からボリビヤ、パラガイ、の様なものと同離れた國々は pre-consonantal KS の正しさに、もつと正確な國々であり、ボリビヤはこれを aux. に迄及ぼしていることが判る。パナマ、ホンデユラス、

第四表 判

	判断の基礎の總計(%)	KS-KS-KS				KS-S-KS				S-S-KS			
		數	% 總計	員數	國の數	數	% 總計	員數	國の數	數	% 總計	員數	國の數
Intervocalic	1341	1230	92	189	10	55	4.1	28	9 <sup>(1)</sup>	16	1.2	6	4 <sup>(2)</sup>
Aux.	580	166	28.6	66	10	70	12	31	10	89	15	35	10
Pre-consonantal.	4656	2809	61	201	10	828	18	119	10	521	11	114	10
Grand Total	6577	4205	64			953	14			626	9.4		

- (1) コスタ、リカを除いた全部。
- (2) チリー、コスタ、リカ、ドミニカ、ホンデユラス。
- (3) アルゼンチン、チリー。
- (4) ドミニカ及びエクアドルを除き全部。
- (5) ボリビヤ、チリー、コロンビヤ、ホンデユラス、パナマ、パラガイ。
- (6) ホンデユラス、コロンビヤ、パナマ。
- (8) アルゼンチン、チリー、コロンビヤ、ドミニカ、ホンデユラス、パナマ。

第五表 國別

	KS-KS-KS										KS-S-KS											
	平	アルゼンチン	ボリビヤ	チリ	コロンビヤ	コスタ、リカ	エクアドル	ホンデユラス	パラガイ	ドミニカ	平	アルゼンチン	ボリビヤ	チリ	コロンビヤ	コスタ、リカ	エクアドル	ホンデユラス	パナマ	パラガイ	ドミニカ	
Interv.	92	87	98	94	87	91.5	97	88	94	88	92	4.1	12	1.4	2.1	9	0	2.7	4.5	1.2	5	1
Aux.	28.6	21	74	16	55	48	20	16	25	15	17	12	25	5.2	12	14	6	14	12	8.4	1.4	24
Pre-cons.	61	50	83	43	48	58	67	51	35	90	43	18	32	3.9	17.5	23	11	21	31	11	9	28
Total	64	60	87	59.5	64	69	70	60	56	78	58	14	23	3.1	10	16	6	13	17.5	7	6.5	17

チリーは S を最も早く認めた國々である。アルゼンチン人は S-S-KS の自己批評に低調であり、其の同輩の KS-S-KS の批評に對して強烈である。一方ドミニカは之等双方に對して強烈であり、パラガイとボリビヤは双方に對して低調である。

斷 の 配 置

S-KS-KS				S-S-S				S-KS-S				KS-S-S				KS-KS-S			
數	%總計	員數	國の數	數	%總計	員數	國の數	數	%總計	員數	國の數	數	%總計	員數	國の數	數	%總計	員數	國の數
3	0.2	2	<sup>(3)</sup> 2	32	2.4	19	<sup>(5)</sup> 6	1	0.07	1	<sup>(6)</sup> 1	2	0.15	1	<sup>(9)</sup> 1	2	0.15	1	<sup>(12)</sup> 1
0	0	0	0	234	40.5	88	10	10	1.7	4	<sup>(7)</sup> 3	8	1.4	4	<sup>(10)</sup> 4	3	0.5	1	<sup>(13)</sup> 1
33	0.7	24	<sup>(4)</sup> 8	357	7.7	110	10	60	1.3	19	<sup>(8)</sup> 6	30	0.65	14	<sup>(11)</sup> 9	18	0.4	9	<sup>(14)</sup> 6
36	0.55			623	9.3			71	1.1			40	0.6			23	0.35		

(9) パナマ。

(10) アルゼンチン、コロンビヤ、ドミニカ、コスタ、リカ。

(11) パラガイを除いて全部。

(12) チリー。

(13) パナマ。

(14) アルゼンチン、コロンビヤ、コスタ、リカ、ホンデュラス、パナマ、パラガイ。

に依る判断型のパーセント

S-S-KS											S-KS-KS											
平	アルゼンチン	ボリビヤ	チリ	コロンビヤ	コスタ、リカ	エクアドル	ホンデュラス	パナマ	パラガイ	ドミニカ	平	アルゼンチン	ボリビヤ	チリ	コロンビヤ	コスタ、リカ	エクアドル	ホンデュラス	パナマ	パラガイ	ドミニカ	
1.2	0	0	0.84	0	6.5	0	0.8	0	0	6	0.2	0.6	0	0.4	0	0.9	0	0	0	0	0	0
15	1.5	1.7	27	7	13	16	14	8.4	15	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	7.6	3.2	21	14	15	10	6	15	0.5	28	0.7	0	1.3	1.3	1.8	0	0	0	4	0	0	0
9.4	3.6	1.7	14	7.5	11	7	5	8	2.7	22	0.55	0.25	0.6	0.7	0.8	0.4	0	0	2	0	0	0

	S-S-S											S-KS-S										
	平 均	アル ゼン チン	ボ リ ビ ヤ	チ リ	コ ロ ン ビ ヤ	コ ス タ 、 リ カ	エ ク ア ド ル	ホ ン ヂ ユ ラ ス	パ ナ マ	パ ラ ガ イ	ド ミ ニ カ	平 均	アル ゼン チン	ボ リ ビ ヤ	チ リ	コ ロ ン ビ ヤ	コ ス タ 、 リ カ	エ ク ア ド ル	ホ ン ヂ ユ ラ ス	パ ナ マ	パ ラ ガ イ	ド ミ ニ カ
Interv.	2.4	0	0.7	2.1	4	0	0	6	2.4	6.5	1	0.07	0	0	0	0	0	0	0.8	0	0	0
Aux.	40.5	48	19	45	17	27	51	47	44	68	13	1.7	0	0	0	4.8	0	0	11	5.6	0	0
Pre-cons.	7.7	4.1	9	13.5	11	11	0	9	22	0	0.8	1.3	3.5	0	1.3	1.8	0	0	2	6	0	0
Total.	9.3	10	7	14.5	9	10	9	14	18	13	3	1.1	1.5	0	0.5	1.6	0	0	3	4	0	0

## (三) 個々の単語

我々の中心となる問題の二番目は、何等かの包括的な規則が pre-consonantal x の總ての例を抱括することが出来るかどうかと云うことである。intervocalic x を持っている言葉の中で、是認された相違に鑑み (Navarro は auxilio, auxiliar, exacto に對して S. コロンビヤの Chocó 地方にて máximo は másimo と發音される。コスタ・リカに於ては fluxión は flusion と發音される) 人々はそのような概括は難しいと思うであろう。今回の調査の結果、それは不可能であることがわかる。我々の 219 の回答者は pre-consonantal x の或る例は intervocalic x の或る例より KS の範圍に於てより高度であるとしている。

私は KS-KS-KS 型の判断を単語の間の區別を知る最も信頼出来る型として選びたい。一つの単語に對する三つの同一の回答は、質問を受けた回答者が何等の曖昧さを感じないという最もよい證據である。次の表 (第六表) に於て各語に對する總ての判断の總計に於て KS-KS-KS 型判断の百分率に依て順に並べてある。

第六表 KS-KS-KS 判断に依る順位 (% に依て示す)

1. sexos	95	19. expurgaron	57
2. sexo	94.5	20. mixtura	55

KS-S-S										KS-KS-S											
平	アル	ボ	チ	コ	コ	エ	ホ	パ	パ	ド	平	アル	ボ	チ	コ	コ	エ	ホ	パ	パ	ド
均	ゼン	リ	ロ	スタ、	ク	ン	ナ	ラ	ミ		均	ゼン	リ	ロ	スタ、	ク	ン	ナ	ラ	ミ	
	ン	ビ	ン	リ	カ	ア	デ	ガ	ニ		ン	ビ	ン	リ	カ	ア	デ	ガ	ニ		
	ヤ	ヤ	ヤ	カ	カ	ド	ユ	イ	カ		ヤ	ヤ	ヤ	カ	カ	ド	ユ	マ	ガ	カ	
0.15	0	0	0	0	0	0	0	2.4	0	0	0.15	0	0	0.4	0	0.9	0	0	0	0	0
1.4	4.5	0	0	2.4	6	0	0	0	0	2	0.5	0	0	0	0	0	0	8.4	0	0	0
0.65	1.8	0	2	0	3	1.6	0.7	2	0	0	0.4	0.6	0	0	0	1.6	0	0.7	4	0	0
0.6	1.5	0	0.9	0.4	2.5	0.7	0.3	2	0	0.4	0.35	0.25	0	0.2	0	1	0	0.3	3	0	0

3.	taxi	93.5	21.	Sixto	52
4.	ex ministro	92	22.	Taxco	52
5.	tóxico	92	23.	expiar	51
6.	exceso	91	24.	extenso	51
7.	léxico	89	25.	experiencia	50.5
8.	ex libris	89	26.	exponer	49.5
9.	ex parte	87	27.	expirado	46.5
10.	reflexiones	86.5	28.	sexto	43
11.	exangüe	84	29.	extensión	41
12.	texto	73	30.	excepciones	40
13.	éxtasis	70.5	31.	mixtificación	39
14.	extra	70	32.	auxiliar v.	30
15.	nixtamal	67.5	33.	excusas	30
16.	textiles	65	34.	auxiliar adj.	30
17.	exfoliaron	60.5	35.	auxilio	25
18.	oxte-moxte	60			

第六表と第七表とを比較のこと。第七表は“La mayoría”欄に於けるKSの百分率に依て單語を順位づけてある。

第七表 “La mayoría” 欄に於ける KS の%

1. sexos	96.5	19. expurgaron	62
2. sexo	95.5	20. mixtura	58
3. taxi	94.5	21. Taxco	57
4. tóxico	93	22. expiar	55
5. exceso	92	23. Sixto	55
6. ex ministro	91.5	24. extenso	55
7. léxico	91.5	25. exponer	54
8. ex libris	90	26. experiencia	53.5
9. reflexiones	89	27. expirado	50.2
10. ex parte	87	28. sexto	47
11. exangüe	85	29. extensión	45
12. texto	74.5	30. mixtificación	42
13. éxtasis	72	31. excepciones	41
14. extra	71.5	32. excusas	35
15. nixtamal	68	33. auxiliar adj.	32.5
16. textiles	67.5	34. auxiliar v.	32
17. exfoliaron	65	35. auxilio	28
18. oxe-moxte	62.5		

後で述べる第十一表に於て、KS-KS-KS 型判断及び KS 音、即ち “La mayoría” 欄の回答は “yo”、及び “Es mejor” 欄と共に肩を並べている。分離し得る接頭語 ex の總ての例は exceso が、そうであるように上部に於て上席を占めていることに注意されたい。speech level に於て ex 及び exceso は、大抵 KS となるように思われる。texto と textiles は疑いもなく、教室に於て屢々用いられるが故に、上位を占めている。従つて他より KS を訂正しようとする影響を受け易い。exangüe は sangre との contamination (混淆) に依つて少々位置が下つたものであろう。思うに éxtasis と extra は x が強勢のある音節に於て起るという事實に依つて上席に位置を占めている。excepcio-

nes が極端に低い位置にあるのは、exceso の高い位置にあるのに鑑み目につく。或る回答者の exceso は強意語であるが故に、強調の重要さの爲であろうとするのには賛成し兼ねる。Sixto と sexto との成對的位置は、固有名詞の保守主義を示している。ex libris に對する ex ministro の相對的關聯及び extensión に對する extenso のそれは、曖昧性又は不條理を避けようとしていることを反映している。私は auxilio の s は余り高音にして他の音と間違えられることはないから auxilio が強勢に關聯して s の位置のため auxiliar の二つの例の下にあるとは思えない。回答はまちまちであつたが、數字は偶然にも平均を保つた。然し實際にはエクアドルを除いた總ての國々を代表する24人は auxiliar verb 及び auxiliar adjective に對して違つた判斷をした。このことは KS と S は homonym (同音異義語) を區別するのに便利であることを感じているということを暗示している。

最後に pre-consonantal x を持つた、もつと普通の言葉の大部分は表の下部の方にあることに注意して欲しい。大抵の言葉に對する S-S-S 判斷の總計は、ずつと KS-KS-KS 判斷の總數より少い。其の百分率は KS-KS-KS 型表の反對を示すが故に、其程大切なことではない。

第八表は S-S-S に對して6又は其以上の%を持つた言葉を表わしている。

第八表 S-S-S 判斷を示す

1. auxiliar adj.	40.5%	8. oxe-moxte	13.5%
2. auxilio	40	9. nixtamál	11
3. auxiliar v.	39.6	10. extensión	10.3
4. excepciones	26	11. mixtura	8.3
5. mixtificación	23	12. expirado	7.7
6. excusas	20	13. sexto	7.5
7. Taxco	18.4	14. exfoliaron	6.9

然しながら本表に於ける五つの單語は、KS-KS-KS 表に於て5%又は其以上を占めている。Taxi, oxe-mate, nixtamal, mixtura と exfoliaron で

ある。四つの單語 Taxco, nixtamal, oxe-moxte 及び exfoliaron の關する限り、おそらく口頭に依る經驗の缺除のためである。exfoliaron は、よく知られた單語で他のものは地方的である。回答の約五分の一は、Taxco, nixtamal, oxe-moxte を全然省いている。そして或者は「當地では用いられない」と云うような批評を述べている。oxe-moxte は明らかにある地方に於ては、よく知られている。一方二つの mexicanism は到る處でかなり一般に見知らぬものとして感ぜられた。mes 及び mez words (mestura, mestizo, mescolanza, mezclar等) の同族語族の五番目の單語 mixtura は恐らく S-S-S 判断のかなり高い百分率を示している。一方 mixtura 及び mestura のような同音異義語に近い語に區別しようとする促しは KS-KS-KS 判断の高い百分率を説明することになる。

第九表及び第十表は“yo”及び“Es mejor”欄に於て KS に對する百分率に依る選擇に依つて、單語の順位を定めたものである。

第九表 “Yo digo” 欄に於けるKS回答の%に依る語順

1. ex ministro	98.6	19. exfoliaron	78
2. sexos	98.1	20. experiencia	77
3. tóxico	97.7	21. mixtura	77
4. sexo	97.7	22. Sixto	77
5. léxico	97.6	23. extenso	76
6. taxi	97.2	24. oxe-moxte	75
7. exceso	97	25. exponer	72
8. ex libris	96.6	26. expirado	71
9. ex parte	95	27. extensión	68
10. reflexiones	92.5	28. Taxco	68
11. exangüe	91.3	29. sexto	67
12. texto	91	30. mixtificación	57
13. éxtasis	89	31. excusas	53.5
14. extra	89	32. excepciones	53
15. textiles	86.5	33. auxiliar adj.	45
16. nixtamal	85	34. auxiliar v.	44
17. expurgaron	80	35. auxilio	40
18. expiar	78		



第十表 ‘Es mejor’ 欄に於ける KS 回答%の依る語順

1. ex ministro	100	19. éxtasis	91
2. ex libris	99.5	20. exponer	90.5
3. exceso	99	21. mixtura	90
4. sexo	99	22. exfoliaron	90
5. sexos	98.6	23. sexto	89
6. taxi	98.5	24. extenso	89
7. tóxico	98	25. nixtamal	89
8. léxico	97	26. expirado	88
9. ex parte	96.5	27. oxe-moxte	84
10. texto	96	28. extensión	83
11. textiles	96	29. Taxco	80
12. experiencia	95	30. excusas	77
13. extra	95	31. excepciones	73
14. reflexiones	94	32. mixtificación	73
15. exangüe	94	33. auxiliar v.	58
16. expurgaron	92	34. auxiliar adj.	56
17. expiar	91.5	35. auxilio	55.5
18. Sixto	91.5		

順位に依る比較を容易にするため、四つの経過を KS-KS-KS を基調にして併記して第十一表に示して置く。最も比較を闡明にするのは“yo”と“Es mejor”の間に就てである。最初の三つの欄の總てに於て、正確に同じ順序ではないが同じ十一の單語は最初の十一の位置を示めている。然しながら“Es mejor”欄に於て、四つの pre-consonantal の例——texto, textiles, experiencia, extra——は reflexiones や exangüe (experiencia は、その“La ‘mayoría’”の位置から14ポイントだけ上つている) に先んじて密集している。此等四つの言葉は發音訂正者が大抵取上げるであろう處の單語である。我々は彼等の生徒達に、これらの言葉を正しく發音するよう生徒に教える教師の影響を認める。

第十一表 KS に對する順序を比較する。

	KS-KS-KS 判 斷	La mayoría	Yo digo	Es mejor		KS-KS-KS 判 斷	La mayoría	Yo digo	Es mejor
sexos	1	1	2	5	expurgaron	19	19	17	16
sexo	2	2	4	4	mixtura	20	20	21	21
taxi	3	3	6	6	Sixto	21	23	22	18
ex ministro	4	6	1	1	Taxco	22	21	28	29
tóxico	5	4	3	7	expiar	23	22	18	17
exceso	6	5	7	3	extenso	24	24	23	24
léxico	7	7	5	8	experiencia	25	26	20	12
ex libris	8	8	8	2	exponer	26	25	25	20
ex parte	9	10	9	9	expirado	27	27	26	26
reflexiones	10	9	10	14	sexto	28	28	29	23
exangüe	11	11	11	15	extensión	29	29	27	28
texto	12	12	12	10	excepciones	30	31	32	31
éxtasis	13	13	13	19	mixtificación	31	30	30	32
extra	14	14	14	13	auxiliar v.	32	34	34	33
nixtamal	15	15	16	25	excusas	33	32	31	30
textiles	16	16	15	11	auxiliar adj.	34	33	33	34
exfoliaron	17	17	19	22	auxilio	35	35	35	35
oxte-moxte	18	18	24	27					

## (四) 結 論

(1) 南米の大部分に於て、教養ある人々の間に於けるXに對する標準はKSである。

(2) 其の標準は教養ある人々に依つて實際の發音に於て廣範圍に認められている。或る國々に於て一層認められ、ある國々に於ては、其程認められてはいないが。其の認識の程度は標準に對して、大した影響を持つものではない。

(3) この標準は夫々の單語に依り不平等に認められている。概して教室で使う單語は大抵 pre-consonantal KSを持っている。單語と結びつかないは殆んど總ての話者にとつて、KS音を持っている。同音異義語の接觸は、expiar と espiar のように、別の形態を保たせるために、ほんの僅かだけ影響を持っている。強勢が役割を演ずるように見えるが、其は未だ判然としてはいない。

以上が大體、ボリンガーの要旨であり、補捉説明を要すべき點もあるが、南米に於けるXの發音に一定の標準を與え得たものといえる。扱つてこの調査から教室に對する實用價值として何か刈りとられるであろうか。今日に到る迄、大方の教師に依つてなされたように intervocalic KS と pre-consonantal S を教えることは、教養ある南米人の使う用法を反映していない。そして pre-consonantal x に關する限り、南米の用法の正反對である。我國に於けるスペイン語學習者の目的は、主として、中南米貿易に重點を置いている以上、全ての X の位置に對して、KS を教えた方が宜しからうと思う。このことは X に對して一つの音のみを教えることになるが、南米の用法にも合致し、重ねて發音の多岐性を除去するにも役立つことになる。